



ハードディスク・ユーザーズマニュアル

LHD-UxxH Series

LHD-UxxE Series

DOS/V パソコン PC98-NX シリーズ PC-9800 シリーズ Macintosh シリーズ

Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
ごあいさつ	5
ご注意	5
付属品の確認	6
第 1 章 製品のご紹介	7
1 . 1 製品概要	7
1 . 2 使用環境について	8
1 . 3 各部の名称と機能	10
第 2 章 接続について	12
2 . 1 ハードディスクの準備	12
2 . 1 . 1 設置方向とスタンドについて	12
2 . 1 . 2 ディップスイッチの設定	14
2 . 2 接続の手順	18
2 . 3 他の SCSI 機器との併用について	21
第 3 章 接続後の作業	23
3 . 1 Windows Me , 98/95 の場合	23
3 . 2 Windows 2000 の場合	26
3 . 3 Windows NT 4.0 の場合	29
3 . 4 Mac OS の場合	30
第 4 章 補足事項	31
4 . 1 トラブルシューティング	31
4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合	33
4 . 3 オプション品について	34

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



注意

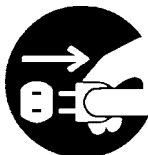
この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かに注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。

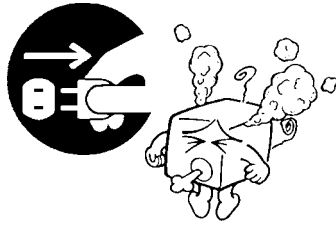


塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

万一、異常が発生したとき。

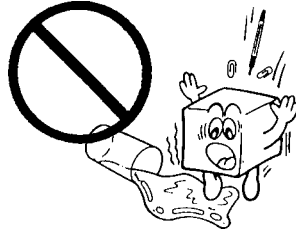
本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



異物を入れないでください。

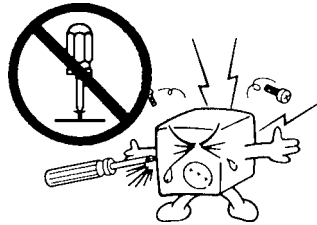
本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



分解しないでください。

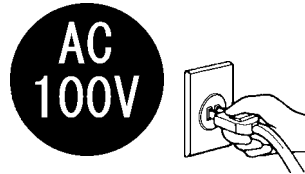
ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。



表示された電源で

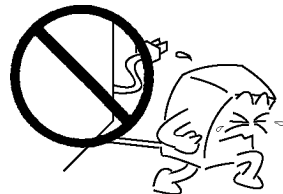
使用してください。

電源コードは必ずAC100Vのコンセントに接続してください。



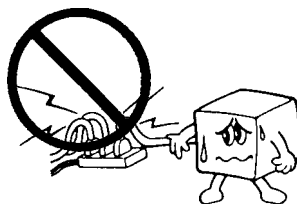
電源コードを大切に。

電源コードは破損しないように十分ご注意ください。コード部分を持って抜き差ししたり、コードの上にものを乗せると、被服が破れて感電/火災の原因となります。

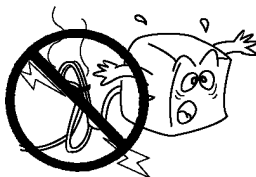


⚠ 注意

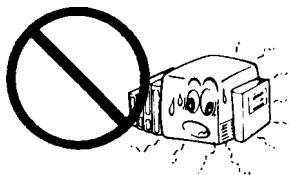
電源コードはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は火災の原因となります。



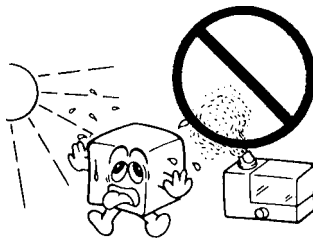
電源コードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。



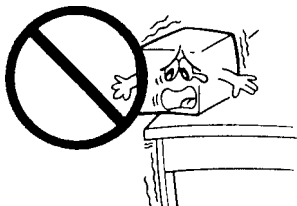
通風孔はふさがないでください。過熱による火災、故障の原因となります。



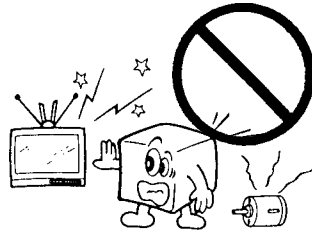
高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。



本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用 / 保管は避けてください。

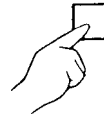


ラジオ・テレビ等の近くで使用しますと、ノイズを与える事があります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置がありますとノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。



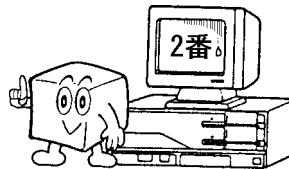
1・2・3・4・5

電源スイッチを一度OFFにした時は5秒以上たってから「ON」にしてください。

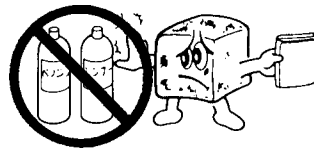


電源を入れる時は、周辺機器を先に、パソコンを最後に行ってください。逆にするとパソコンが周辺機器を認識しない場合があります。

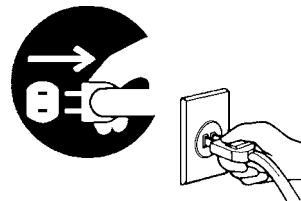
電源を切る時は、アクセス表示ランプが点灯していないことを確認してから切ってください。



本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。(本体内に垂れ落ちるほど含ませないように気をつけてください。)揮発性の薬品(ベンジン・シンナーなど)を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



本製品を長期間使用しない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜いておいてください。



ごあいさつ

この度は弊社ハードディスクをお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書はハードディスクに関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社ハードディスクによって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品を使用して収納したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様がお客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

* MS[®]、MS[®]-DOS、Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。Macintosh[®]はアップルコンピュータ社の登録商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

付属品の確認

	ベース モデル	/P モデル	/M モデル
ハードディスクユニット	1 台		
縦置き用スタンド	2 個		
保証書 / ユーザー登録カード	1 枚		
ハードディスク・ユーザーズマニュアル	本書		
ケーブル (CB-51WW-008)	1 本		なし
ケーブル (CB-2550D-010)	なし		1 本
「LogitecWare」CD-ROM	1 枚		なし
「LogitecWare+B'sCrew」CD-ROM	なし		1 枚
Windows / Macintosh兼用 SCSIインターフェース LHA-600U マニュアル	なし	一式	なし

本製品は精密電子機器です。輸送時には必ず付属の梱包材をご使用ください。

/Mモデルの「LogitecWare+B'sCrew」CD-ROMには、Macintosh用フォーマット「B'sCrew 3 Lite」が収録されています。(その他のモデルの「LogitecWare」CD-ROMには収録されていません。)

第 1 章 製品のご紹介

1.1 製品概要

1

本製品は SCSI 規格に準拠した外付け型ハードディスクユニットです。

本製品の特徴

UltraATA 対応のハードディスクを採用し、これに独自のインターフェース変換回路を付加することにより、UltraSCSIに対応しています。

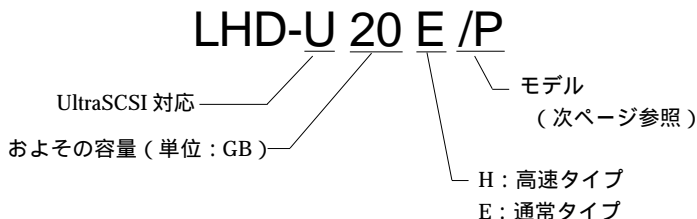
UltraSCSI への対応によって、最大 20MB/s (理論値) の高速データ転送が可能です。ただし、本製品で最大同期転送速度を 20MB/s にするには、UltraSCSI 対応の SCSI インターフェースボードを使用しなければなりません。

ターミネータを内蔵しています。また、オートターミネーション機能を持っているため、終端 (SCSI インターフェースから最も遠い位置) に接続すると自動的にターミネータが有効になり、その他の位置に接続すると自動的に無効になります。(オートターミネーション機能は無効に設定することも可能です。)

コンパクトなボディで設置に場所を取りません。設置方向は縦置き / 横置きのどちらも可能です。

型番とモデルについて

本製品の型番は以下のような意味を持ちます。



型番の末尾の枝番（/P、/M など）は、下表のように本製品のモデルをあらわします。

枝番なし	ベースモデル（増設用など）
/P	SCSIインターフェース添付モデル （Windows用）
/M	Macintosh用モデル

枝番なしのベースモデルは増設用、もしくはPCMCIA SCSI I/F カードへの接続などに使用するモデルです。

「/P」モデルはDOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、Macintosh シリーズで共通に使用できるSCSIインターフェースボード（PCIバス）が添付されたモデルです。（ただし、Macintoshで使用する場合は、別途 Macintosh 用フォーマッタが必要になります。）

「/M」モデルはSCSIシステムケーブルとMacintosh用フォーマッタが添付されたモデルです。D-sub25 ピンのSCSIコネクタを持つMacintoshシリーズに直接接続することができます。

1.2 使用環境について

接続可能なパソコン本体

本製品は以下のパソコンに接続して使用することができます。詳細な機種については接続に使用するSCSIインターフェースボードに依存しますので、SCSIインターフェースボードのマニュアルをご参照ください。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ
	PC-9800 シリーズ
アップルコンピュータ社	Macintosh シリーズ



ご注意

- ・ 発売されているすべての機種で動作確認を行うのは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることはご承知おきください。
 - ・ ベースモデルの場合は、「4.3 オプション品について」で説明するオプション品が必要になる場合があります。
 - ・ 「/P」モデルに付属の SCSI インターフェイスボードを使用した場合、PC-9800 シリーズでは、本製品からのシステム起動はできません。
 - ・ Macintosh シリーズは、Macintosh SE/30 以降でハードディスクを内蔵した機種に限定されます。(iMac シリーズ、iBook シリーズを除く)
-

対応 OS

本製品は以下の OS で使用することができます。(いずれも日本語 OS のみ。また、パソコン本体が対応していない OS では使用できません。)

マイクロソフト株式会社	Windows Me , 98/95 Windows 2000 , NT 4.0
アップルコンピュータ社	Mac OS 7.6 ~ 9.0.4

(「/P」モデルの場合は、付属 SCSI インターフェイスボードの制限から Mac OS 8.1 以降になります。)



ご注意

PC-9800 シリーズ用の Windows 95 を使用する場合、PC-9800 シリーズ用 BIOS ROM を搭載していない SCSI インターフェイスに本製品を接続することはできません。「/P」モデルは、付属の SCSI インターフェイスボード「LHA-600U」がこの制限に該当するため、PC-9800 シリーズ用の Windows 95 では使用できません。(PC-9800 シリーズ用 Windows 98 では問題ありません。)

1 . 3 各部の名称と機能

1

前 面

アクセス表示ランプ（赤色）

ハードディスクに対して、アクセスを行っている時に点灯します。
このランプが点灯している間は、電源を切らないでください。

電源表示ランプ（緑色）

電源がONの時に点灯します。

背 面

電源スイッチ

電源のON/OFFを行います。

SCSI コネクタ OUT

SCSI 機器を増設する場合に使用します。

ターミネータ表示ランプ

本製品の内蔵ターミネータが有効になっている時に点灯します。

SCSI コネクタ IN

付属ケーブルで SCSI インターフェースと接続します。

電源コード

AC 100V の家庭用コンセントに接続します。

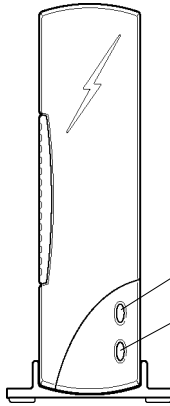
底 面

ディップスイッチ

本製品に関する設定を行うスイッチです。出荷時の状態ではカバーで覆われていますので、設定を変更する場合はカバーを取り外してください。

設定方法については「2 . 1 ハードディスクの準備」をご参照ください。

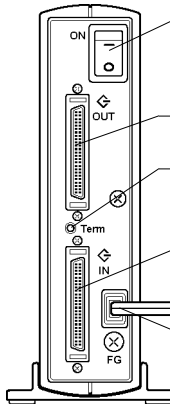
前 面



アクセス表示ランプ（赤色）

電源表示ランプ（緑色）

背 面



電源スイッチ

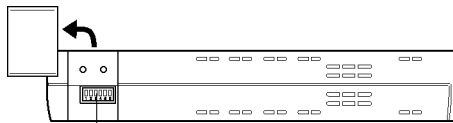
SCSI コネクタ OUT

ターミネータ表示ランプ

SCSI コネクタ IN

電源コード

底 面



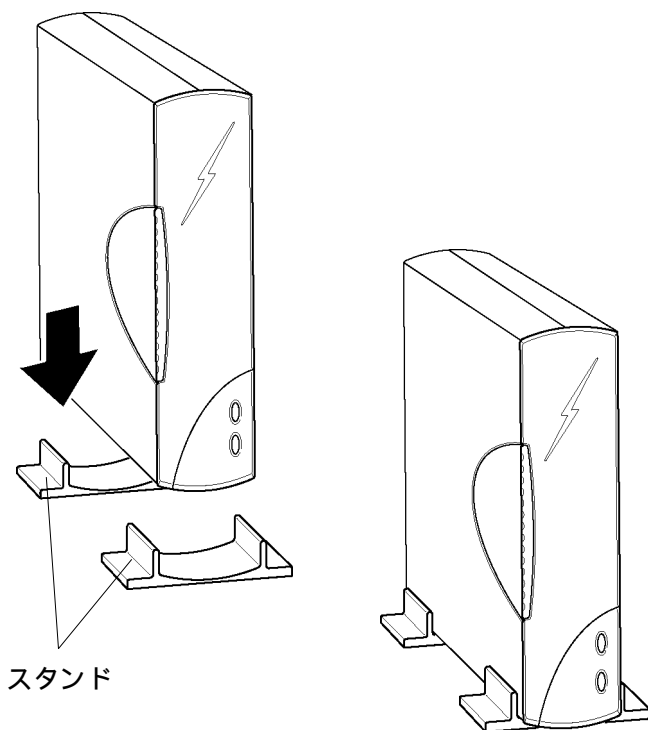
ディップスイッチ

第2章 接続について

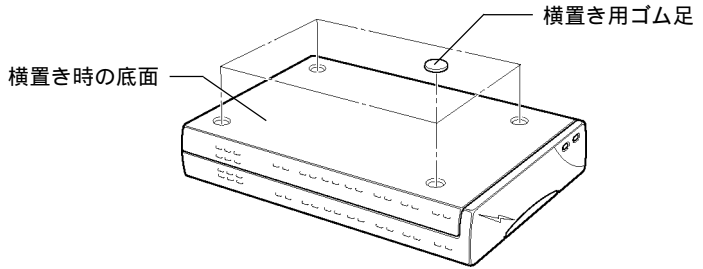
2.1 ハードディスクの準備

2.1.1 設置方向とスタンドについて

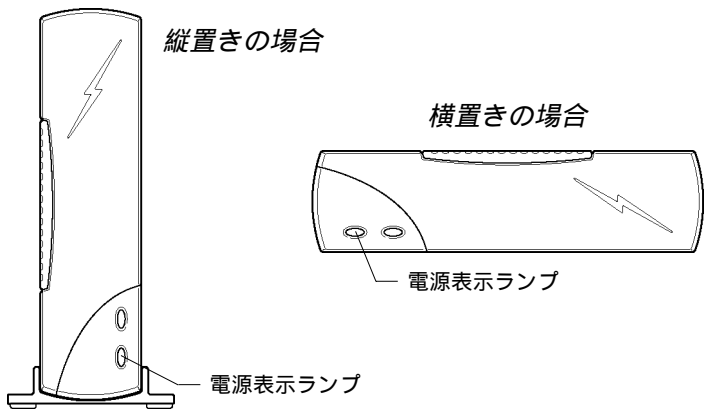
本製品は縦置き / 横置きのどちらも可能です。縦置きに設置する場合は、下図のように付属のスタンドを前後に1個ずつ取付けてください。(本製品を縦置きにしたときに底面となる面に丸い突起がありますので、そこにスタンドをあわせてください。)



縦置きに設置する場合は、下図のように底面に付属のゴム足4個を貼付してください。

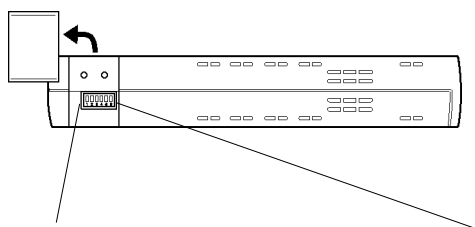


設置方向は、縦置きの場合も、横置きの場合も、電源表示ランプが下になるように設置してください。

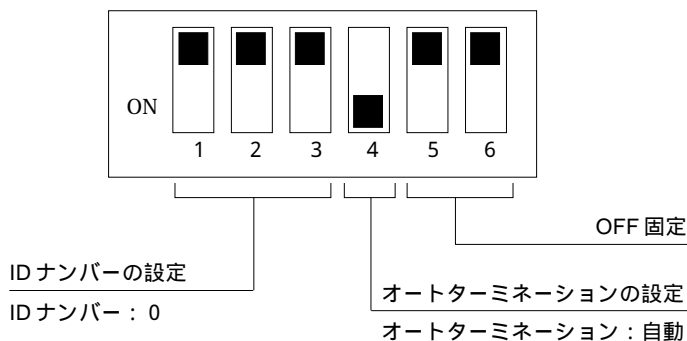


2.1.2 ディップスイッチの設定

本製品の底面にはディップスイッチがあり、本製品に関する設定（IDナンバー、オートターミネーション）を行います。ディップスイッチは出荷時の状態でカバーに覆われていますので、設定を変更する場合は、小さなマイナスドライバーなどでカバーを取り外してください。



出荷時設定





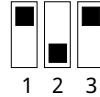




ご注意

- ・ディップスイッチの設定を変更する場合は、本製品の電源がOFFになっている状態で変更してください。電源がONになったままで変更しても認識されません。
- ・上の説明の中で「OFF 固定」と書かれたスイッチは変更しないでください。

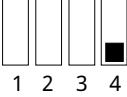

IDナンバーの設定

「IDナンバー」はSCSI機器を区別するための番号です。「0」～「6」の範囲で任意の番号に設定できますが、併用するSCSI機器と重複があつてはいけません。(例えば、同じSCSIインターフェースにIDナンバー「0」に設定した機器が2台接続されてはいけません。どちらかを別の番号にする必要があります。)

もし、本製品以外にSCSI機器を使用しない場合は、出荷時設定のまま、IDナンバー「0」でご使用ください。

IDナンバー：0	IDナンバー：1	IDナンバー：2
ON 	ON 	ON 
IDナンバー：3	IDナンバー：4	IDナンバー：5
ON 	ON 	ON 
IDナンバー：6		
ON 		

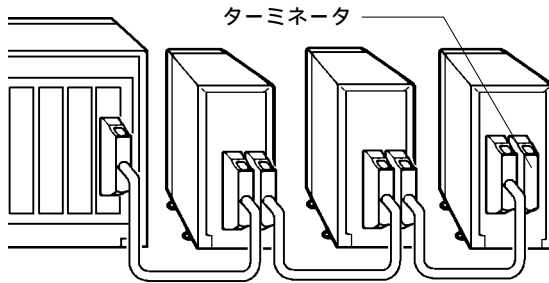
オートターミネーションの設定

オートターミネーション：自動	オートターミネーション：無効
ON 	ON 

オートターミネーションについての説明は、長くなりますので次ページをご参照ください。

オートターミネーションとは・・・

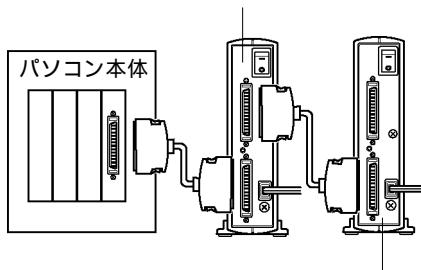
通常の SCSI 接続では終端 (SCSI インターフェースから最も遠い位置) となる SCSI 機器に「ターミネータ」と呼ばれる部品を取り付けて、信号線を安定させる必要があります。



ところが、本製品はこの「ターミネータ」を内蔵して、さらに「オートターミネーション機能」を持っています。

「オートターミネーション機能」は、接続された位置を感知して、自動的に内蔵ターミネータを有効/無効に切り替える機能です。(内蔵ターミネータの状態は、背面のターミネータ表示ランプで確認することができます。)

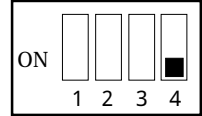
終端以外に接続すると、自動的に内蔵ターミネータが無効になります。
(ターミネータ表示ランプ：消灯)



終端に接続すると、自動的に内蔵ターミネータが有効になります。
(ターミネータ表示ランプ：点灯)

このように便利なオートターミネーション機能ですが、これを正しく使用するためには2つ注意しなければならないことがあります。

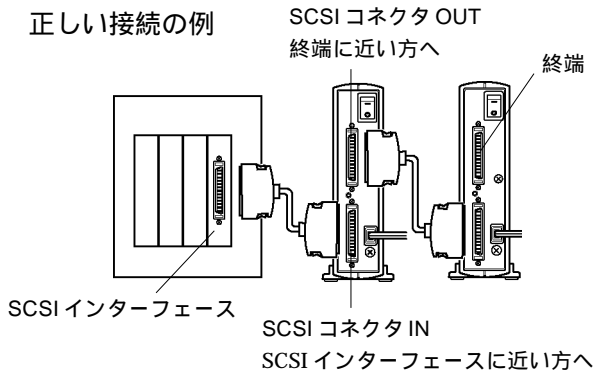
1. オートターミネーション機能を使用する場合は、本製品のディップスイッチで、オートターミネーションが「自動」(初期設定)に設定されていないといけません。



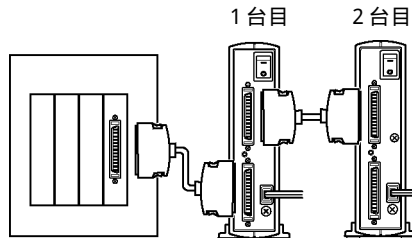
2. 接続の際に、本製品のSCSIコネクタINがSCSIインターフェース側に、SCSIコネクタOUTが終端側(増設機器側)になるようにケーブルを接続しなければなりません。

正しく接続すると、下図のようにケーブルがOUTとINをつなぐ形になります。OUT同士やIN同士をつなぐのは間違った接続です。

正しい接続の例



✕ 間違った接続の例



2 . 2 接続の手順

ここでは本製品のみをSCSIインターフェースに接続する手順を説明します。例としてあげられているパソコン本体はDOS/Vパソコンですが、基本的な接続方法はその他のパソコンでも同じです。

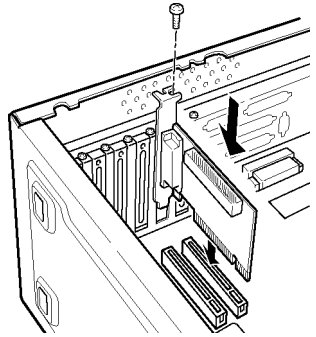
ただし、本製品をMacintosh PowerBookシリーズの旧機種（HDI 30ピンのSCSIコネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook2400、3400、G3を除くもの）に接続する場合は、特殊な接続方法になりますので、「4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合」をご参照ください。



重要なお注意

- ・ 接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにしてください。
また、SCSIインターフェースを新規接続する場合は、必ずパソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。SCSIインターフェースを接続する際に、内部ショートが発生すると電源がONになってしまう場合があります。危険防止のため、必ず電源コードをコンセントから外してください。
 - ・ 本製品のSCSIコネクタは接点にピンを使用しています。そのため、間違ったコネクタに差し込んだり、無理に力を加えるとピンが曲がってしまいます。
ケーブル接続時はSCSIコネクタの種類と方向を確認して、正面から接続してください。接続しにくい場合は、無理に力を加えないでピンが曲がっていないかどうか確認してください。
-

SCSI インターフェースを内蔵していないパソコン本体の場合は、最初に SCSI インターフェースボードを接続します。詳細については SCSI インターフェースボードのマニュアルをご参照ください。

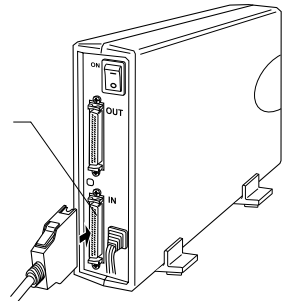


2

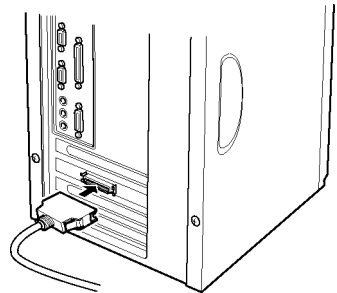
本製品の SCSI コネクタ IN に、本製品付属ケーブルを接続します。

SCSI コネクタ IN

カチッとロック
したことを確認



本製品付属ケーブルのもう片方のコネクタを、SCSI インターフェースの外部 SCSI コネクタに接続します。

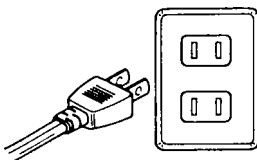


Point

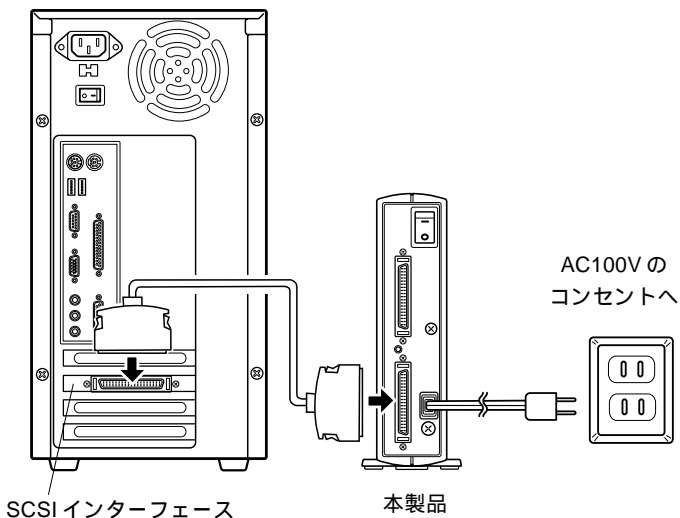
ポイント

/M モデルを D-Sub25 ピンの SCSI コネクタに接続する場合は、コネクタ左右のネジで固定しておいてください。

本製品の電源コードを AC100V のコンセントに接続します。



以上で接続は終了です。下の接続図と比べて、間違いがないことを確認してください。



Point ポイント

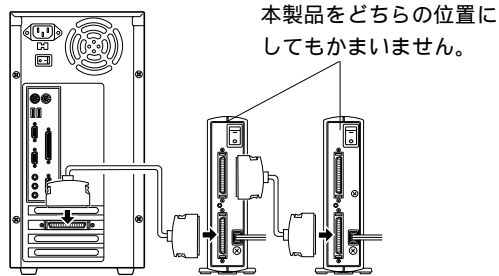
接続が終了したら、本製品の電源を ON にして、ターミネータ表示ランプが点灯することを確認してください。（本製品以外に SCSI 機器が接続されていない場合、本製品が終端となるため、内蔵ターミネータは有効になります。）

2.3 他の SCSI 機器との併用について

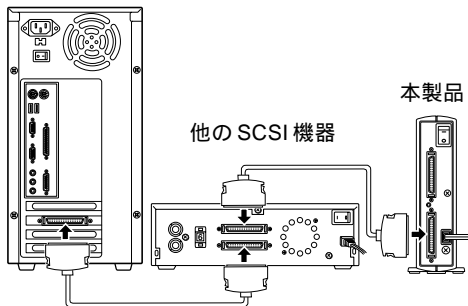
SCSI 規格では、複数の SCSI 機器を数珠つなぎにして1つの SCSI インターフェイスに接続することができます。本製品を他の SCSI 機器と併用する場合は、下の接続図のように接続してください。その際、次ページの注意事項にご注意ください。

2

オートターミネーション機能 を持つ機器を増設する場合



オートターミネーション機能 を持たない機器を増設する場合



注意事項

- ・ケーブル長、接続台数は原則的に以下の通りです。詳細については SCSI インターフェイスボードのマニュアルをご参照ください。
ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計です。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)

	ケーブル長の合計	接続台数
FastSCSI	3m以下	4台以下
UltraSCSI		3台以下

- ・ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計が3m以下でなければなりません。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)
- ・IDナンバーは必ず重複しないように設定してください。
- ・オートターミネーション機能を持つ機器は、必ず SCSI コネクタ IN が SCSI インターフェイス側に、SCSI コネクタ OUT が終端側になるようにケーブルを接続してください。
接続が終了したら、SCSI 機器の電源を ON にして、終端に接続した機器のターミネータ表示ランプが点灯し、その他の位置に接続した SCSI 機器のターミネータ表示ランプが消灯することを確認してください。
- ・オートターミネーション機能を持たない機器を混在させる場合は、終端以外の位置(中間の位置)に接続してください。本製品を終端に接続することによって、外付けターミネータが不要になります。(オートターミネーション機能を持たない機器が混在していても、SCSI コネクタ IN / OUT を正しく接続していれば、本製品のオートターミネーション機能は正常に機能します。)



ご注意

SCSI 機器の中には、ターミネータを内蔵しているがオートターミネーション機能を持っていないものもあります。このような SCSI 機器を併用する場合は、終端以外の位置に接続して、内蔵ターミネータを「無効」に設定してください。

不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。

第3章 接続後の作業

3.1 Windows® Me, 98/95 の場合

ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows Me, 98/95 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業は使用する SCSI インターフェースによって異なりますので、SCSI インターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。



参考

- ・ 既存の SCSI インターフェースにベースモデルを接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。
- ・ ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは本製品のフォーマットが終了してからです。
- ・ SCSI インターフェースによっては Windows Me, 98/95 標準のドライバを使用するため、ドライバが不要な場合もあります。ご使用の SCSI インターフェースのマニュアルでご確認ください。

ハードディスクのフォーマット

次にハードディスク（本製品）のフォーマットを行います。Windows 98/95 の場合、フォーマットは付属のユーティリティ「ディスクフォーマッタ」で行います。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。（下図参照）

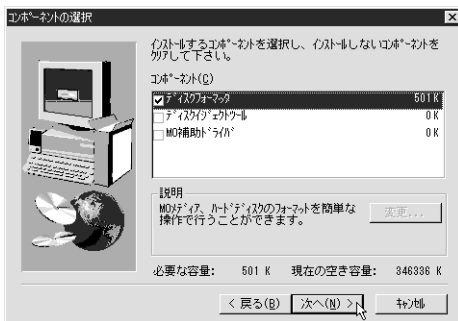
1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを1回クリックして、選択状態にします。



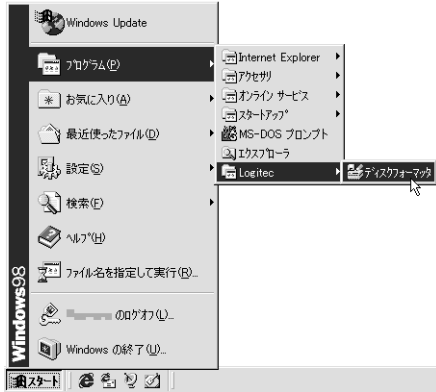
2. 「セットアップの起動」をクリックします。

Point

ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」以外にも、「ディスクプロジェクトツール」と「MO補助ドライバ」が含まれていますが、本製品を使用する上で必要なのは「ディスクフォーマッタ」のみです。（他のユーティリティをインストールしても特に害はありません。）



インストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」をクリックすることで起動できます。



3

また、インストール時、デスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



ディスクフォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「ハードディスクのフォーマット」をご参照ください。

3 . 2 Windows® 2000 の場合

ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows 2000 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業は使用する SCSI インターフェースによって異なりますので、SCSI インターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。

3



参考

- ・ 既存の SCSI インターフェースにベースモデルを接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。
 - ・ ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは本製品のフォーマットが終了してからです。
 - ・ SCSI インターフェースによっては Windows 2000 標準のドライバを使用するため、ドライバが不要な場合もあります。ご使用の SCSI インターフェースのマニュアルでご確認ください。
-

ハードディスクのフォーマット

次にハードディスク（本製品）のフォーマットを行います。Windows 2000の場合、フォーマットはWindows 2000標準のユーティリティ「ディスクの管理」から行います。「ディスクの管理」でフォーマットを行う概略の手順は以下の通りです。

Point

ポイント

本製品付属 CD-ROM に保存された補足説明ファイルには、より詳細なフォーマット手順が記載されています。必要に応じてご参照ください。（下記のファイルをダブルクリックすると、インターネット・エクスプローラなどで内容を表示することができます。）

ファイル名： ¥Document¥Hdfmt2k¥Index.html

管理者権限を持つグループ（例えば「Administrators グループ」）のメンバーとしてログオンします。

デスクトップ上の「マイコンピュータ」を右クリックして、表示されるメニューから「管理」を選択します。

「コンピュータの管理」のウィンドウが表されたら、コンソールツリー上で「記憶域」の下の「ディスクの管理」をクリックします。

Point

ポイント

ここで「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が起動した場合は、キャンセルボタンをクリックしてください。

「ディスクの管理」が表示されたら、「不明」と書かれているディスクを右クリックして、表示されるメニューから「署名」を実行してください。

署名したディスクの「未割り当て」と書かれた部分を右クリックして、「パーティションの作成」を選択してください。

「パーティションの作成ウィザード」が起動したら、表示されるメッセージにしたがって作業を行ってください。

Point

ポイント

「パーティションの作成ウィザード」の中で、作成するパーティションを「プライマリパーティション」にするか、「拡張パーティション」にするかを選択するステップがあります。

通常は、「拡張パーティション」を選択し、拡張パーティションの中に論理ドライブを作成してください。

3 . 3 Windows® NT 4.0 の場合

ドライバのインストール

SCSI インターフェースを新規接続した場合（「P」モデルの場合など）は、接続終了後、Windows NT 4.0 のシステムを起動して、SCSI インターフェースのドライバをインストールしなければなりません。

この作業はSCSIインターフェースによって異なりますので、SCSIインターフェースのマニュアルにしたがってインストールを行ってください。



参考

- ・ 既存のSCSIインターフェースにベースモデルを接続した場合（すでにドライバがインストールされている場合）は、ドライバのインストールは必要ありません。次の「ハードディスクのフォーマット」のみを行ってください。
 - ・ ドライバのインストールが完了した時点では、まだ本製品のドライブアイコンは「マイコンピュータ」に登録されません。これが登録されるのは次の「ハードディスクのフォーマット」が終了してからです。
-

ハードディスクのフォーマット

本製品のフォーマットにはWindows NT 4.0 標準のユーティリティ「ディスクアドミニストレータ」を使用します。Administratorsグループでログオンして、ディスクアドミニストレータを起動し、フォーマットを行ってください。

区画の容量制限について

Windows NT 4.0 は、1つの区画の容量に下表のような制限を持っています。

区画のタイプ	1区画の容量制限
FAT区画	4GB
NTFS区画	2,000GB

FAT区画の容量制限は4GBですが、2GBを超える区画を作成した場合、MS-DOS との互換がなくなるため、フロッピーディスクなどから従来のMS-DOS を起動しても、その区画は認識されません。

また、NTFS 区画は容量に関係なく MS-DOS との互換性を持ちません。



ご注意

NTFS 区画の容量制限は Windows Me , 98/95 の FAT32 ファイルシステムと同じ 2,000GB ですが、この 2 つはまったく異なるもので、互換性はありませんのでご注意ください。

3 . 4 Mac[®] OS の場合

本製品を Mac OS で使用する場合は、Macintosh 用フォーマット「B'sCrew 3 Lite」をインストールして、本製品のフォーマットを行う必要があります。(Macintosh 用フォーマット「B'sCrew 3 Lite」は、/M モデル付属の「LogitecWare+B'sCrew」CD-ROM に収録されています。その他のモデルの場合は、別売のソフトウェアキット「LKT-MACBC」が必要です。)

インストール手順、フォーマット手順については、「B'sCrew 3 Lite」のオンラインマニュアルをご参照ください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品を接続したら、システムが起動しなくなった。

本製品のIDナンバーが他のSCSI機器と重複していないかどうか確認してください。

Windows環境で本製品が認識されない。

本製品の電源の状態と接続の状態をもう一度確認してください。
SCSIインターフェースは正常に認識されていますか？ SCSIインターフェースのドライバはインストールされていますか？
ハードディスクのフォーマットは行いましたか？

時々エラーが発生するなど、

本製品の動作が安定しない。

SCSIコネクタなどに接触不良はありませんか？
ターミネータの状態を確認してください。本製品が終端となる位置に接続されている場合、本製品のターミネータ表示ランプは点灯していなければなりません。本製品が終端以外の位置に接続されている場合、ターミネータ表示ランプは消灯していなければなりません。この場合、終端に接続されている機器の内蔵ターミネータが有効になっているか、外付けターミネータが接続されていないかもしれません。
ケーブルが長すぎませんか？ 複数の機器を接続している場合は、本製品だけを接続して試してください。また、インピーダンスの低いケーブルはトラブルの原因となります。可能であればケーブルを交換して試してください。

本製品を終端以外の位置に接続しているのに、
ターミネータ表示ランプが点灯している。

本製品と同じようにオートターミネーション機能を持つ SCSI 機器を接続している場合は、必ず SCSI コネクタ IN を SCSI インターフェースに近い方へ、SCSI コネクタ OUT を終端に近い方へ接続されなければなりません。これを逆に接続すると、このような症状が発生します。

もし、どうしてもオートターミネーション機能が正常に動作しない場合は、終端以外の位置に接続した機器のオートターミネーション機能を、「無効」に設定してください。

その他：ソフトウェアの最新バージョン入手方法など

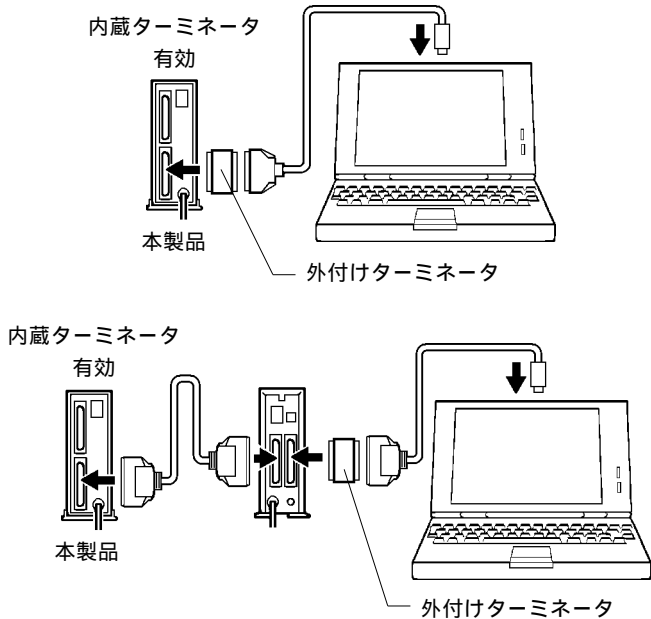
弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーもありますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitec.co.jp/>

4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合

Point

Macintosh PowerBook シリーズの旧機種 (HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 を除くもの) では、SCSI インターフェースにターミネータが内蔵されていません。そのため、これらの機種では、SCSI 機器を挟み込むように 2 個のターミネータを必要とします。つまり本製品を終端の位置に接続して、内蔵ターミネータが有効になっていても、別途外付けターミネータが必要だということです。(Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 はターミネータを内蔵していますので、外付けターミネータは必要ありません。)



図のように外付けターミネータは、両端に SCSI コネクタを持つタイプ (両切) でなければなりません。本製品に接続可能な両切のターミネータは以下の型番で弊社より発売されています。

LSR-A52A (D-sub ハーフピッチ 50 ピン × 2)

4 . 3 オプション品について

ここでは主にベースモデルを接続する際に使用するオプション品を説明します。その他のモデルでは接続に必要なものがすべて添付されていますので、原則的にオプション品は不要です。

SCSI インターフェース

ベースモデルを PCMCIA、CardBus、Cバスなどの SCSI インターフェースに接続したい場合は、以下の弊社製品をご使用ください。(接続方法等については SCSI インターフェースのマニュアルをご参照ください。)

SCSI インターフェース	バス	仕様	補 足
LPM-SCSI3E	CardBus	Ultra	
LPM-SCSI3E/M	CardBus		Macintosh シリーズ専用
LPM-SCSI2E	PCMCIA	Fast	
LHA-301A	Cバス		PC-9800 シリーズ専用

Ultra = UltraSCSI 対応 Fast = FastSCSI 対応



ご注意

- ・ 本製品は UltraSCSI 対応の SCSI インターフェースボードに接続した場合のみ最大同期転送が 20MB/s になります。
 - ・ PCMCIA、および CardBus の SCSI インターフェースは、PC-9800 シリーズ用 BIOS ROM を搭載していないため、PC-9800 シリーズ用の Windows 95 環境で本製品を接続することはできません。(PC-9800 シリーズ用の Windows 98 では問題ありません。)
 - ・ 上記以外の弊社 SCSI インターフェース(旧製品など)については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。
-

ケーブル

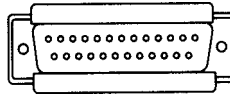
ベースモデルを接続する際に接続先の機器とコネクタ形状が合わない場合は、下表のような別売ケーブルが必要になります。

ケーブル	長さ	SCSIコネクタ
CB-51WW-003	0.3m	D-subハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51WW-008	0.8m	
CB-51HW-003	0.3m	アンフェノールハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HW-008	0.8m	
CB-2550D-005	0.5m	D-sub25ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-003	0.3m	アンフェノールフルピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-008	0.8m	
CB-PBA50-005	0.5m	HDI30ピン D-subハーフピッチ50ピン

コネクタ形状



D-sub ハーフピッチ 50 ピン
(本製品のコネクタ形状)



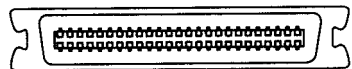
D-sub 25 ピン



HDI 30 ピン



アンフェノール
ハーフピッチ 50 ピン



アンフェノールフルピッチ 50 ピン

Macintosh 用フォーマッタ

ベースモデルを単体でMacintoshシリーズの増設用として使用する場合には、Macintosh用フォーマッタが必要になります。弊社からは、以下の型番でソフトウェアキットとして発売されています。(ただし、弊社Macintosh用SCSIインターフェイスボードには同じフォーマッタが添付されていますので、これを使用する場合は必要ありません。)

ソフトウェアキット	内容
LKT-MACBC	フォーマッタ「B'sCrew 3 Lite」

Memo

Memo

Memo

Memo



<http://www.logitech.co.jp/>